# 第91回日本衛生学会学術総会 (富山) 開催報告


| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2021-05-20<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 稲寺, 秀邦, Inadera, Hidekuni<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/00062398 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

『学会開催報告』

# 第91回日本衛生学会学術総会（富山）開催報告

## The 91st Annual Meeting of the Japanese Society of Hygiene

第91回日本衛生学会学術総会学会長
富山大学学術研究部医学系公衆衛生学講座教授
稲　寺　秀　邦

日本衛生学会は衛生学にたずさわる教育者・研究者約1,500名を会員とし，衛生学上の課題について討議し，衛生学に関わる動向や課題への理解を深めるために毎年，学術総会を開催している．

第91回日本衛生学会学術総会を2021（令和3）年3月6日－8日，完全オンライン開催として行った．現地（富山）での開催を目指して準備を進めてきたが，COVID-19の感染拡大状況を鑑み，2020（令和2）年12月初旬，完全オンライン開催することを決定した．

衛生学は社会から大きな影響を受けながら発展し，社会のさまざまな局面でその成果を役立てていくことを求められてきた．衛生学の特徴は，人間社会にみられる病気や健康に関する出来事の因果関係やメカニズムを解明するために，疫学的手法のみならず動物や培養細胞を用いた実験的手法を駆使することである．社会に開かれ，向き合った時に明らかになってくる課題を解決していくことにより，衛生学はよりよく理解され健全に発展する．「令和」という新たな時代を迎え，衛生学や日本衛生学会の使命を改めて考えたいという思いから，第91回日本衛生学会学術総会のテーマは「これからの衛生学と日本衛生学会の使命」とした．

一般演題はコロナ禍にも関わらず，例年なみの225題の応募があり，計約600名がオンライン参加した．第91回日本衛生学会学術総会では社会医学系専門医・指導医の単位認定のための講習会，および2021年1月よりスタートした衛生学エキスパート制度の単位更新講習会をできるだけ多く盛り込むこととした．

メインシンポジウムは学会活性化の一助として，「連携」を深めるための内容とし，衛生学会の独自性とプレゼンスを高める方策を議論する「連携をキーワードにした衛生学研究の展開」（座長：塚原照臣，東賢一）を開催した．また衛生学のトピックを幅広く理解するために，以下の7つのシンポジウムを企画・開催した．シンポジウム1「日用品に由来する化学物質の曝露と体内動態－身の回りの化学物質の影響を知るために－（市民公開講座）」（座長：磯部友彦），シンポジウム2「エコチル調査－10年のあゆみ－（市民公開講座）」（座長：山崎新，稲寺秀邦），シンポジウム3「エビデンスに基づく栄養と健康」（座長：竹内弘幸，浜崎景），シンポジウム4「アフターコロナの健康管理・健康維持における森林医学の活用」（座長：李卿），シンポジウム5「ゲノム医療・先制医療の時代における衛生学の役割」（座長：牟礼佳苗，武藤倫弘），シンポジウム6「イタイイタイ病の歴史と展望（市民公開講座）」（座長：青島恵子，堀口兵剛），「編集委員会シンポジウム Perspective on academic journals of social medicine」（座長：崔正国，稲寺秀邦）である．

教育講演として，「衛生学と行動科学－新型コロナウイルス感染症を行動科学的に見る－」（講演者：堀悦郎 富山大学教授），「生命科学におけるデジタルトランスフォーメーション」（講演者：高木利久 富山国際大学学長），「ヒトゲノム解読の歴史とゲノム情報の衛生学への応用」（講演者：清水厚志 岩手医科大学教授）の3講演が行われた．特別講演は，西浦博 京都大学教授による「新型コロナウイルス感染症の疫学的特徴」を行った．2019年末から世界中で流行したCOVID-19の疫学的特徴に関して，これまでの研究から得られた知見が分かりやすく解説され，今後の流行の見通しと対策のあり方も含め，衛生学者として新型感染症に如何に対峙したかが分かりやすく紹介された．

2020年度は多くの学会がオンライン開催となっているが，オンライン開催のメリットを生かすべく会期終了後，2週間オンデマンドで講演視聴ができるように配慮した．複数のセッションが並行する通常の学術総会では，聞き逃すシンポジウム等が生じてくるが，学術総会終了後，一定期間，オンデマンド配信することにより，聞き逃しの防止，繰り返し視聴できるメリットを実感し，学会の新しい開催方法となる可能性を感じることができた．その一方，口演者がライブ参加していないことがあり，事前録画した口頭発表は配信できたものの質疑応答ができなかった演題，質疑応答の際に雑音が混入する等いくつかの課題も発生した．

日本衛生学会として初のオンライン開催となる中，ご支援，ご協力を賜りました関係者の皆さまに深く感謝いたします．